湯ふ 背せ 何な 溜た 船ね 中な 度ど ま 今<sup>き</sup> 日ぅ 6りに溜っ <del>を</del> 互たが につかりて寮歌唸る (も何度も擦り落とす はワシら 一いに流紫 まった水垢を が 風ふ し あ い

夜も白みて鳥は啼き窓の外には初冠雪

紫雲に明けは染みていく

今<sup>き</sup> 日ぅ

ロの議論

は長かった

今や褥に突っ伏さんいましたねっぷ

今<sup>き</sup> 日ぅ のエ ッ セ シ尋な

鳥とドンコと里芋と れば

夜空に 瞬 / 今日の飲み 安焼耐を酌み交わやすじょうちゅう 飲みは遺跡 けく星の海 の 地<sup>5</sup>

男と男が涙 ここが恵迪俺がやる がする

喰らふは]

に 同じ 釜

が の 団<sup>\*</sup>変い 居<sub>い</sub>

いも絶えぬ

人参玉ねぎ煮染めなり

柳 小 谷 Ш 信 太郎 吾 莙 君 作 作 Ж 詇